

# 被爆80年特別企画展「被爆樹木」について

中原祥之・富澤まり

## はじめに

植物公園では、年に1度、自主企画の特別企画展を開催している。今年度は「被爆樹木」をテーマとした被爆80年特別企画展「被爆樹木」を2025年7月19（土）から10月13日（月・祝）まで開催した。平成17年度・27年度・令和2年度に続き、5年ぶり4回目となる被爆樹木に関する特別企画展の開催となった（写真1）。被爆80年を迎え、広島で力強く生き延びてきた被爆樹木の現状や、被爆樹木に関わる様々な活動を取り上げた。

なお、本展示は、広島市の被爆80年の取組のうち、市民等が主体となって行う「平和文化の振興」に資する取組に位置付けられ、市の行う被爆80周年記念事業と一体感のある周知・協力などを受けた。

## 被爆樹木について

広島市では、爆心地から概ね2 km 以内で被爆した樹木を被爆樹木として登録している。被爆

当時の場所に現存しているもの、移植されたもののほか、インドハマユウのような草本も含まれている。一方、江波山にあるヒロシマエバヤマザクラのような、爆心地から2 km 以上離れた場所で被爆した樹木は、登録の対象から外れている。令和7年4月1日現在、159本の木々が被爆樹木として登録されている。



写真1 正面フォトスペース（正面画像：藤原隆雄氏撮影）

## 展示概要

大きく6つの章立てを行い、展示内容を理解しやすいように工夫した（図）。また、本展示では次世代を担う子どもたちにも理解しやすいように、図や写真などを多く取り入れ、文字数を削減し、より読みやすい展示を目指した。

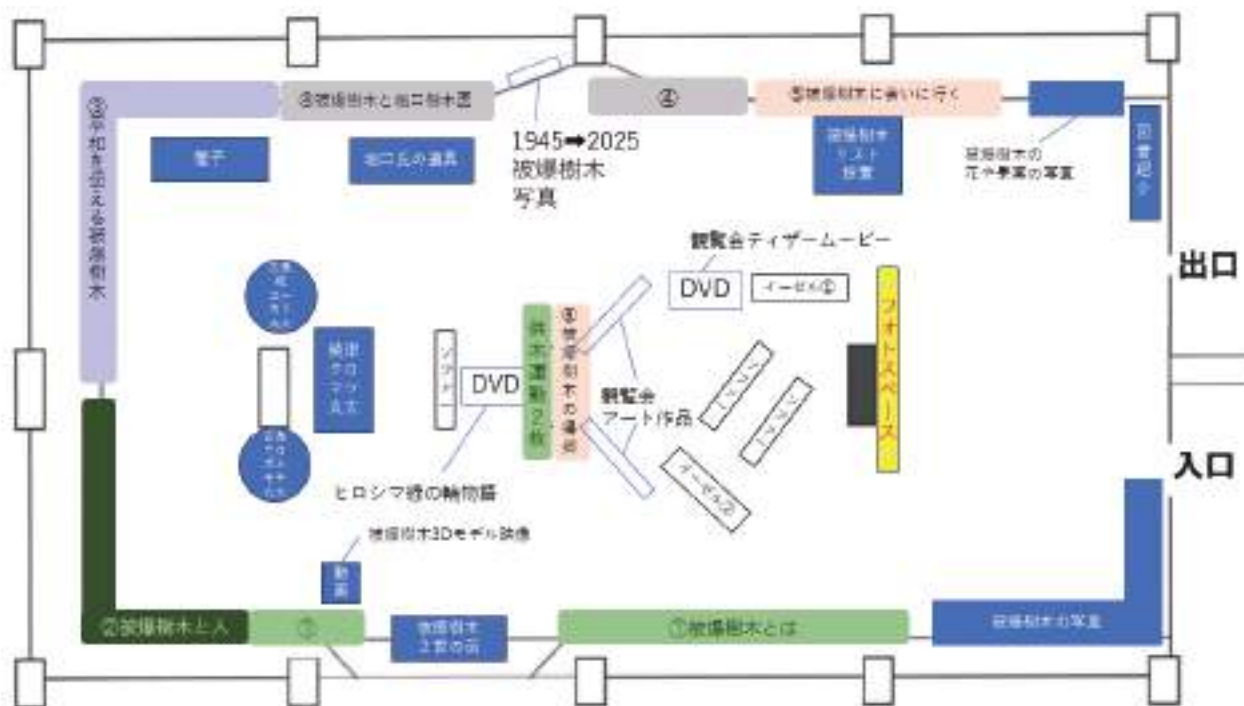


図 会場レイアウト

## 第1章 被爆樹木とは

展示の導入として、被爆樹木の概略や研究成果、新登録された被爆樹木、枯死して登録が抹消された被爆樹木について解説した。また、筑波大学の鈴木雅和名誉教授から提供いただいた被爆樹木の3Dモデルの映像(写真2)を放映し、被爆樹木が爆心地側に傾くことや、堀口力樹木医から借用した被爆樹木の切り株等(写真3)を用いて、爆心地側の成長が著しく遅延していることが視覚的にわかるように展示した。

## 第2章 被爆樹木と人

被爆樹木と人がどのように関わってきたのかを紹介し、被爆後の市民に寄り添い心のよりどころとなった被爆樹木に親しみを持ってもらう事を目的とした。今回はクスノキ(三篠神社境内)とイチヨウ(報専坊境内)を紹介した。

## 第3章 平和を伝える被爆樹木

当園はグリーンレガシーヒロシマ(GLH)から協力依頼を受け、2012年より海外への被爆樹木2世の種子発送を行っており、2025年12月現在、日本を含む45か国へ発送している。当園の種子発送業務やGLHの協力団体の取組について、被爆樹木の種子(写真4)と共に展示し、解説した。

## 第4章 被爆樹木と堀口樹木医

長く被爆樹木に関わり、保存活動を行っている堀口樹木医を取材し、保存活動やモニタリング調査、近年の被爆樹木の状況について解説した。また、堀口樹木医より、調査に使用する道具(写真5)を借用し展示した。さらに、治療に関して、過度の手当てを行わず、樹木の生きる力を損なわないようにする堀口樹木医の方針も紹介した。

## 第5章 被爆樹木に会いに行く

株式会社中国四国博報堂より画像提供いただき、被爆樹木の位置がわかる「被爆樹木リスト」を作成して配架した(写真6)。緑の伝言プロジェクトがwebで掲載している「被爆樹木カルテ」も紹介し、来場者が実際の被爆樹木に会いに行き、観察するきっかけとなる仕組みも取り入れる他、被爆樹木を観察する際の注意喚起も行った。

## 第6章 被爆樹木の帰郷

当園では11月8日(土)から11月30日(日)までアート展「Hibakujumoku - the trees in a community - Kikyo 帰郷」を開催したが、特別企画展会期中はプレ展示として、ノルウェーのアーティストグループJumokuよりアート作品2点とティザームービー1点を提供いただき展示に用いた(写真7)。

### その他の展示

戦後の緑の復興として、被爆樹木には直接の関わりはないが、供木運動について紹介した。小学生にも理解できるように、一般社団法人まち物語制作委員会より、「ヒロシマ緑の輪物語」のDVD(写真8)を提供いただき放映した。

また、被爆樹木の美しさを知ってもらうために、藤原隆雄氏に提供いただいた花や果実の写真を展示した。



写真2 イチヨウ(縮景園内)の3Dモデル



写真3 枯死した被爆樹木の切り株等



写真4 被爆樹木の種子



写真7 アート展のプレ展示の様子



写真5 モニタリング調査に使用する道具



写真8 DVD「ヒロシマ緑の輪物語」の映像



写真6 被爆樹木リスト

### 関連イベント

関連イベントとして、以下の5つの催しを企画した。講演会や観察会などを行い、被爆樹木についてより深く学べる機会を提供した。

#### 1. 講演会「被爆樹木を未来につなぐ」

7月20日(日)13時半から、展示資料館2階講堂で開催した(写真9)。講師は樹木医の堀口力氏に依頼し、被爆直後の写真と比較しながら被爆樹木の特徴や、被爆樹木の持つ平和を伝える力について解説し、被爆80年と100年を見据えて、未来への思いを伝えた。参加者は50名であった。

#### 2. 講演会「広島の木に会いに行く 被爆樹木が見る未来」

8月3日(日)13時半から、展示資料館2階講堂で開催した(写真10)。講師は映画監督・作家の石田優子氏に依頼し、動画を用いて様々な被爆樹木と人々のつながりを解説し、被爆樹木を守ることが平和を守ることにつながると伝えた。参加者は51名であった。

#### 3. 絵おと芝居「ヒロシマ緑の輪物語」

9月14日(日)18時からと19時半から、雨

天のため展示資料館2階講堂で2回開催した(写真11)。出演は「安心・安全を伝えるグループほっとつながる未来へ(一般社団法人まち物語制作委員会)」で、供木運動について、7名の読み手とキーボード2名、動画操作者1名による上映を行った。観覧者は1回目が約100名、2回目が約40名であった。

#### 4. ギャラリートーク

9月15日(月・祝)10時から展示室で職員が展示内容を解説するギャラリートークを行った(写真12)。当日は種子貯蔵庫も見学してもらい種子の保存状況についても解説した。参加者は4名であった。



写真9 講演会の様子(堀口力氏)



写真10 講演会の様子(石田優子氏)



写真11 絵おと芝居「ヒロシマ緑の輪物語」の様子

#### 5. 観察会「被爆樹木探訪会」

10月5日(日)10時に広島平和記念資料館東館に集合し、約2時間でアオギリ(平和記念公園)を起点にユーカーリ(広島城二の丸跡)まで計9カ所の被爆樹木を巡った(写真13)。講師は樹木医の堀口力氏に依頼した。事前申込制で定員は20名であったが、85名の応募があり、抽選を行った。当日欠席もあり最終的な参加者は16名であった。参加者は、被爆の影響で様々な形態異常を伴いながら生きる樹木の様子を興味深く観察していた。



写真12 ギャラリートークの様子



写真13 観察会の様子(堀口力氏)

#### まとめ

開催期間(7月19日～10月13日)の計75日間(金曜日は休園)の総入園者数は26,900名であった。展示資料の収集等を通じて、被爆樹木の果たす役割や市民の関心が大きくなっているように感じた。そのような状況下で、被爆樹木をテーマとした研究や創作活動について、堀口樹木医やGLHはもとより、写真家の藤原隆雄氏、アーティストグループJumoku(キュレーター中英公子氏)、映画監督・作家の石田優子氏など、ここ10数年の間に積極的に活動している方々と連携し協力関係を構築し、催事が出来たことは、

一定の成果があったものと思われる。しかしながら、来場者の中には広島に住んでいても被爆樹木について知らない方もおり、引き続き被爆樹木の認知度を高め被爆樹木を守る事は、被爆地広島の植物園として、取り組むべき重要なテーマの1つであると感じた。

## 謝辞

本展示会には、下記の方々にご協力いただきました。ここに深く感謝の意を表します。

### 後援団体 (50音順)

公益社団法人日本植物園協会、広島市

### 協力団体 (敬称略、50音順)

一般社団法人まち物語制作委員会、株式会社中国四国博報堂、グリーン・レガシー・ヒロシマ、国連訓練調査研究所 (ユニタール) 広島事務所、Jumoku、特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima、平和首長会議 (公益財団法人広島平和文化センター)、広島市公文書館、広島平和記念資料館

### 協力者 (50音順)

石田優子様、鈴木雅和様、藤原隆雄様、堀口力様